

株式会社橋本テル織物／株式会社紫峯
代表取締役社長

橋本博之氏

昭和三十年四月（株）橋本テル織物創業者・前社長、橋本昭雄氏の長男として京都市に生まれる。西陣の産地問屋修業の後、（株）橋本テル織物入社。取締役を経て、平成十年一月、同社社長に就任。（株）紫峯の社長を兼任。西陣織メーカーとして帯地製造を手掛けるとともに、独自の美意識を追求したものの作りに挑戦し続け、主にアジア、ヨーロッパの刺繍に着眼し、時代にあった織物や刺繍などの製作に積極的に取り組む。

今井政之氏文化勲章受章記念 特別対談

創造の道 これからの陶と織

陶芸家

今井政之氏

一九三〇年大阪市生まれ。岡山県備前市にて備前焼の修業を開始。その後、京都で楠部弥弍に師事し、面象嵌、苔泥彩など独自の技法を生み出す。一九七八年広島県竹原市に登窯を築く。一九五三年に日展に初入選以来、新日展特選、北斗賞、日本藝術院賞など数々の賞を受賞。二〇〇九年旭日中綬章受章。二〇一一年文化功労者顕彰。二〇一八年文化勲章受章。日本藝術院会員、日展名誉顧問、公益財団法人京都文化財団評議員、ベルー共和国クスコ美術学校客員名誉教授。広島県名誉県民。





松涛居での対談

特別対談

文化功労者の顕彰に引き続き、最高の栄誉、文化勲章受賞。

橋本 この度は、文化勲章受章おめでとうございます。

今井 ありがとうございます。昭和十二年に文化勲章が制定されてから、陶芸では四人目の受章になります。平成最後の受章ということもあり、貴重なものをいただきました。私が勲章もらえるなんてね。夢にも思っていないでした。



文化勲章

異質の土を組み合わせる創る
象嵌の作品。

橋本 私が先生の作品と始めて出会い、一番印象に残っている作品は、三十年ほど前でした。どうか、高島屋で開かれた会場で展示されていたブラジルのピラニアのような魚をモチーフにした作品です。

今井 あれはピラニアといって、なまずの一種です。



橋本 高島屋であの時はじめて「うわあ、すごい象嵌だ」と強い印象を受けました。

今井 そうですね。今から三十年以上前になりますが、南米に渡りペルーからずっとアマゾンの奥地まで連れて行ってもらいました。アマゾンの源流で泳いでいるピラニアを見た時すごい感動を受けました。アマゾン奥地の源流はきれいな水で、澄んだ水の中で泳いでいるピラニアは最高のモチーフになりました。あのときの象嵌は本当に良い出来上がりで、日展にも出品しました。

橋本 僕はあの作品にある線もすごいなと思っています。あの線はどうやって描かれたのですか？



作品「珊瑚の海に舞う」

先生の生命感の溢れるデザインに感じます。

今井 幼少時代に過ごした瀬戸内の広島県竹原の海や川の生物が多いですね。海老、蟹、蝦、蛸（しゃこ）、鰯（かれい）、鯰（なまず）、魚などですが、蠅（かまきり）や蝶などの昆虫や、石榴（ざくろ）、茄子（なす）、椿、竹などの植物や動物も愛すべきモチーフです。

今井 あれは、手描きです。自分で作った金ペラを使って線を入れていきます。フリーハンドでやらないとああいう線はできないのです。

橋本 線の入り具合がなんともいえない味わいがありますね。

今井 線には、加減があるのですよ。加減が柔らかい時には線が開いてしまします。力を入れる加減とその作品の素材の硬さ加減とがあります。素材があまり柔らかいと乾いた時に開いてしまします。しかも手で描いていますから。線が生きます。日本画家の方からあの線はどうやって描かれるのですか？と聞かれました。日本画ではこういう線は出ないと話

をされていきました。筆ではこういう線は出ませんからね。

橋本 線の入り具合がなんともいえない味わいがありますね。ところで先生の作品の面象嵌とはどういったものですか？

今井 簡単に言うとな象嵌の技法は、刻した部分に素地と異なる色の土を埋め込む方法です。今までは象嵌する部分が、細かな模様が多かったのですが、私の場合象嵌する面積が広く、亀裂や剥離が起り易いので大変です。

白、ベージュ、黄、赤、茶褐色、青、緑、黒色などの色を使い、コントラストを重視しています。

橋本 モチーフは生き物が多いですね。



竹原市の海を臨む氏の展示館

作品は広島県竹原市の登り窯、「豊山窯」で創作。

橋本 作品はすべて、先生がご出身の竹原市に作られた工房にある登窯で作られているのですか？

今井 そうです。昭和五十三年から竹原で作っています。京都の登窯は昭和四十年くらいになくなってしまいました。昭和四十一年から五十三年まで清水焼団地で、電気やガスで焼いていました。一時、京都の友達八人と岐阜県金山町に共同の登窯を作り一緒に焼いていたこともありました。その後五十三年に竹原に登窯を築きました。



モチーフのデッサン



豊山窯にて

アメリカ前大統領、オバマ氏に 作品を贈呈。

橋本 オバマ前大統領にさしあげた作品のことを聞かせてください。

今井 平成二十八年、オバマさんが広島にお見えになった時に、広島県知事からおみやげに壺をあげたいと連絡がありました。鶴（こうのとり）の花壺が手元にあ

りましたので、それを知事が贈呈されました。喜んでお持ちになったと聞いています。以前、平成二十一年に、オバマさんがブラハで核兵器なき世界、核廃絶宣言をされましたしよ、その時はすごく感激しましたね。陶額（面象嵌を施した陶画を額に入れた作品）、原爆ドームと鶴の陶額を象嵌しました。当時の米国のルース駐日大使に、ホワイトハウスに飾ってもらおうと思い、お渡ししました。

橋本 オバマさんのところには、二点の作品があるんですね。

今井 そうだと思います。広島でさしあげた作品も、自分で抱きかかえてヘリコプターに乗り込まれたと聞いています。**橋本** それはまたとても記念になるお話ですね。

核兵器の無き世界、 核廃絶宣言に共感して。

今井 やっぱり平和です。平和宣言をされたことに感銘し、陶芸家として自分の作品をさしあげるといふ形で我々も協

力していきたいと考えています。

橋本 原爆投下の日、近くにおられたと聞きました。

今井 当時、竹原に居りました。学徒動員で精錬所に通っていた八月六日の朝、朝礼の時、ちょうど八時十五分、ガーッと空が光ってね。竹原は広島から五十キロほど離れていますが、雲がビカーッと光りました。

橋本 だから、オバマさんが核廃絶とか戦争反対、平和の話をされていることに對する気持ちが、我々よりも思い入れが深いんですね。



作品『茜金時 花壺』



作品『遊蟹 大皿』

今井 平和でなかったらいかんと、つくづく思います。去年の高島屋の展覧会では鳩を作品にして出品しました。近所の公園の鳩をモチーフにしました。世界が平和でなかったら、なにもかもあきません。竹原に窯を築いて、京都の伝統を引き継いでやってきました。

京都の感性を、竹原で、面象嵌という技法を活かして作品を発表してきました。長年創作してきたそれらの作品と、平和への想いが評価されて、今回の勲章につながったのではないかと思います。

伝統の技を継承すること。 着る人を育てること。

今井 叙勲の際の記念写真、着物がよく映っていますね。

橋本 ありがとうございます。ありがたいです。「これらは私共の着物と帯です」と言えます。これからは、職人技や伝統がどこまで続けられるかが問題です。商売全体、きもの業界が下向きになってきてからそれに合わせてずっと織工賃や染代などすべての単価が下げられてきました。そうすると腕の良い職人さんから辞



皇居内に受賞親授式でのご夫妻（東京友禅の色留袖・金つづれ袋帯）

めていきますよね。かといって若い人がきもの業界に入って来るかというところから入って来ません。

今井 なるほどね。だからますます貴重で価値あるものになっていくのですね。

橋本 以前のように年季や経験を積んだ職人たちが一生懸命、一生かけてやったとか、そういうものがなくなってきたんです。

今井 これからどうするのですか？伝統や技を継承しないといけませんよね。

橋本 残していかないとだめだと思っています。残していくためには、常に作り続けていくことが大切です。

今井 着る人も増やさないといいけませんね。教育も大事ですね。素材の良いものやほんとうの染織のよさを、もっと紹介しなければいけないのでは？

橋本 インクジェット染色などが増えてきており、その技術は日進月歩に進化しています。技術はよくなってきたんですけど、たとえば染めひとつにしても人間が手でひとつずつ糊を置いてやったものとは、まったく違いますからね。

今井 それはそれで両方あるのは良いのかもかもしれませんが、やっぱり指先でこう描いたのとは全然違いますよね。

橋本 おっしゃる通り、どうやって伝統を残していくかが課題です。

今井 僕の仕事は、絶対機械ではできませんから。私がやらないと生まれてこないわけですから。

京都とポストン、姉妹都市提携六十年を記念して。

橋本 ところで先生、今年九十歳になられるとお聞きしましたが。

今井 来年、満で九十歳になります。今年の秋、ポストンで展覧会に出品することになっています。ポストンと京都は姉妹都市で、六十周年の記念行事の一環として京都市から依頼を受けました。ポストンは、昔、滞在して展覧会をしたことがあるたいへんなじみの深い懐かしい街です。

橋本 先生はお元気ですから、海外でもどこでも来い！という感じですよ。

今井 はい。去年は上海、一昨年は国立美術館での展覧会でハノイに行ってきた。海外に行けば、刺激を受けて、またなにか新しい題材が見つかりますから、これからもどんどんと外へと出かけて行くつもりです。

橋本 先生、ますます進化した作品を楽しみにしています。先生の作品とコラボしたきものや帯を作り上げたいと思います。今日はありがとうございます。

今井 橋本さんも作品をどんどん作って発表してってください。私の面象嵌を織りで立体感のある作品に作り上げるものも面白いと思います。そして、着てもらうお客さんをたくさん探してきてください。私の焼き物も、床の間に置いてもらえるようにね(笑)。



秋の松涛居



株式会社橋本テル織物／株式会社紫峯
ゲストハウス 松涛居
〒603-8478
京都市北区大宮釈迦谷10-31番地
TEL.075-493-1000